

# 国際会議参加報告書

帝塚山大学大学院 今井靖雄

## 1、名称

International Congress of Applied Psychology (ICAP) 2018

第 29 回国際応用心理学会

公式ホームページ <http://www.icap2018.com/>

## 2、日時

平成 30 年 6 月 26 ～30 日

## 3、旅行期間

平成 30 年 6 月 25 ～30 日

## 4、開催場所

カナダ・ケベック州・モンリオール市・国際会議場

( the Palais de congre's de Montreal )

## 5、発表内容

Experimental study on the influence of young driver's conversation using fNIRS

fNIRS を用いた若者の初心運転者における会話の運転への影響の実験的研究

この度、国際会議等参加旅費補助に採択いただき、申請者の国際学会への参加および発表の機会を頂きましたことに、関係者の皆様へ厚く御礼申し上げます。以下に、活動内容ならびにその成果について報告させていただきます。

## 学会概要

今回、申請者はカナダのモンリオール市・国際会議場で行われました **International Congress of Applied Psychology (ICAP) 2018** に参加して参りました。今大会では、通常の国際学会よりも、交通関係の発表が多いようでしたので、大変有意義な参加となりました。日本の先生方におかれましても、国内でお聞きするのとはまた違った研究の話をしていただき、大変勉強になりました。

今大会では、fNIRS (Functional Near-Infrared Spectroscopy) や VR(virtual reality) を用いた脳科学的アプローチによる研究発表も多く、今後、それらの最新機器をどのように自分の研究に取り込んでいくか、また現在の自身の研究の立ち位置や研究スタイルの強みについて、考えさせられました。

国内外の著名な先生とはもちろん、若手の研究者の方とお話しする機会が得られ、大変

貴重な体験をすることができました。

## 成果

学会では、6月26日（火）の12：15～13：45に交通心理学分野の発表を集めたセッションにおいて、「experimental study on the influence of young driver's conversation using fNIRS (fNIRS を用いた若年運転者における会話の運転への影響に関する実験的研究)」というタイトルでポスター発表を行って参りました。この研究は、急ぎながら、また会話をしながら運転することによって、運転がどのように変化するかを検証し、その際の脳賦活を測定するというものでした。

近年、脳科学の観点から交通における現象へのアプローチが隆盛となっていることから、自身が想像していたより多くの方々が研究を聞きに来てくださいました。その際に、若年ドライバーに関するデータのみでありましたので、他の年齢層における影響や、それをどのように教育につなげていくのかなど、今後の方向性について議論いたしました。

## その他の成果

海外での国際学会の発表は、今大会が初めてでしたので、様々な体験が大変貴重でありました。個人的には横長のポスターが初体験で、試行錯誤しながら作成いたしました。国際学会であることから、最初から説明するための文章を作成することにこだわりすぎてしまい、会話に臨機応用さが欠け、想定問答や質疑応答の準備の甘さを実感いたしました。

モントリオールの交通や街並みに関しても、少しですが以下にご報告いたします。



モンテリオールは 19 世紀の建造物や石畳の道が残っており、北米のパリと呼ばれているだけあって、フランスの雰囲気薫り漂っておりました。



信号は日本とは違って、慣れないとわかりづらかったです。ちなみに赤信号は手のひらが表示される。“待てっ！”て感じですね。





自転車の専用道路がありました。カナダは完全に自転車は道路を走っていて、車のレーンの一番前で止まっているシーンもおなじみでした。



結局、信号のタイミングは難しく、危険そうなタイミングでもわたる現地のお父さん。リスクホメオスタシス理論に従えば、このような少し危険な交差点の方が歩行者も車もきちんと確認行動をするから、安全なのでしょうか？



モントリオールの一番の観光名所、ノートルダム大聖堂、音とプロジェクトマッピングのショーが売りできれいでした。壁に絵が描かれていたので、ゆっくり見たかったのですが、



入れ替えがあるので、中をゆっくり見学することは無理でした。残念です。



ゆっくりできたのは、1894年に完成した世界の女王マリア大聖堂、ネオ・ゴシック様式のカトリック教会です。無料で入ることができ、中の厳かな雰囲気も味わえました。奥には礼拝所（写真上）とその上のステントグラス（写真下）などがあり、格調の高い場所で今回の発表できたことを感謝したのであります。





最後に

この度、国際学会に参加することにより、海外の研究の最前線に触れることができました。それにより、今後の研究の実践と英語能力の獲得に対するモチベーションがとても高まりました。このように大変貴重な体験をできましたことを、助成していただいた交通心理学会ならびに学会関係者の方々に厚く御礼申し上げます。本大会での経験を糧に、より一層精進いたします。